

門川大作京都市長への要望書

平成 23 年 12 月 27 日

社団法人 京都経済同友会

はじめに

門川大作京都市長は、さる12月10日の記者会見で来年2月5日に投開票される京都市長選挙への再選出馬を正式に表明された。私たちは、門川市長の不退転の決意を重く受け止め、京都市長選挙でのご健闘を祈るとともに、ここに門川市政2期目への政策要望を提出する。

1期目の門川市政は、マニフェストに基づき「いのちを大切にする」「環境への高い志を共有する」「知恵を活かし、活力を高める」「ひとを育て、まちを元気にする」「刷新し市役所を変える」の5つのキーワードからなる「京都力向上策」に沿って、諸施策を進めてこられた。

京都市の厳しい財政状況の下、またリーマンショックや東日本大震災などで内外の経済情勢が悪化する中、門川市長は様々な制約を乗り越えて市政改革を断行され、「京都に住んでいてよかった」と市民が実感できるような数々の事業成果を挙げてこられた。

その一方で、私たち経済人の目から見て、「こうすればもっと効果が上がる」「まだまだ努力の余地がある」と、物足りなさや心残りを感じさせる施策や事業がなかったわけではない。

私たちは、門川市長の2期目に向けた政策要望を以下にまとめた。

門川市長が来るべき選挙戦を勝ち抜かれ、再び4年間の市長職の重責を担われるに当たり、私たちの率直な評価に耳を傾けていただき、政策要望を前向きに検討され、自らのマニフェストに盛り込まれるならば、これ以上の喜びはない。

平成23年12月27日

社団法人 京都経済同友会
代表幹事 田辺 親男
代表幹事 長谷 幹雄

政策要望

① 産学公連携で新産業創出のモデル提示を進められたい。

- ・ 京都市の産業行政は新規事業創出のための受け皿、仕組み作りから具体的な成果を形にして示す段階に来ているのではないか。
- ・ 京都市産業技術研究所内の知恵産業融合センター、2013年度にオープンする洛南進都の「技術の橋渡し拠点」などの施設を活用して、新産業育成のモデルの提示に取り組まれたい。
- ・ ライフイノベーション分野では、京都大学などとの医工薬産学公連携支援事業の仕組みなどを活用して医療・検査機器や試薬などの新技術の開発や新産業の創出に努められたい。
- ・ グリーンイノベーション分野では、京都にはエコカーやスマートコミュニティー関連の企業が数多く集積している。これらの成長分野で中小企業も含めた関連企業の厚みを増し、すそ野を広げる施策に努められたい。
- ・ マンガ、ゲームなど京都のコンテンツ資源を生かすため、マンガ博物館などを活用した産業育成の仕組みづくりに努められたい。映画、テレビなどの映像産業振興に力を入れる京都府との連携も進められたい。
- ・ 景気停滞期には中小企業向けのより手厚い支援が必要だ。セーフティネットである金融支援をより強化するとともに、中小企業パワーアッププロジェクトなどを活用して、経営支援の充実に取り組まれたい。

② 観光・MICE戦略の深化、具体化を図られたい。

- ・ 京都市は観光行政の「量から質」への転換を打ち出したが、あえて量と質の二兎を追ってほしい。内外の若い旅行者がレベルの高いリピーターに成長する可能性があると考える。
- ・ 観光関連産業はすそ野が広く、京都ブームを新商品、新サービスの創出と発展につなげ、雇用創出の結び付けに努められたい。
- ・ 国内外の会議誘致競争に勝ち抜くため、国立京都国際会館に5,000人規模の会議施設の早期完成を図られたい。

③ 都市の活力と環境、美観の均衡あるまちづくりに取り組まれたい。

- ・ 山紫水明の地・京都にふさわしい景観政策と活力ある都市機能とのバランスが取れたまちづくりを進められたい。
- ・ 都市機能を高め、地域の環境とにぎわい創出に貢献できる建築物や地区計画については、高さやデザインの思い切った規制緩和の検討を進められたい。
- ・ 内外から高い評価を受けている優れた京の町家保存・再生を点から面に広げ、新たな観光資源や伝統文化の情報発信拠点へと取り組まれたい。

- ・最先端の環境技術と伝統的な京都の環境対応型の住まい方の知恵を兼ね備えたエコ街区を創出し、そのノウハウなどの情報発信に取り組まれたい。
- ・阪神大震災や東日本大震災の経験を踏まえ、災害に強い安心・安全なまちづくりの推進に一層力を注がれたい。

④ 企業経営の感覚で財政再建の道筋をより明確にされたい。

- ・連結決算の単年度黒字化を至上命題とし、そのためには職員・市議会議員定数の削減、給与引き下げなど聖域なき歳出削減の断行に努められたい。
- ・2兆円に迫る累積赤字についても毎年数値目標を設けて漸減策を講じることに取り組まれたい。新たな市債発行は認められない。
- ・赤字の最大要因である地下鉄事業の改革は関連事業による増収策が手詰まりになっている。バス路線の見直しによる地下鉄主要駅のターミナル化やマイカーの中心市街地乗り入れ禁止など思い切った対策に取り組まれたい。

⑤ 京のこころ、価値観の探求とその情報発信に取り組まれたい。

- ・長い歴史と伝統を持つ京都は、伝統文化や宗教哲学の集積地として日本の心ともいえる独自の価値観を醸成してきた。一方で東日本大震災を契機に日本人のライフスタイルや幸福感に大きな変化が生まれている。本会では本年度から「ハピネス」特別委員会を設け、京都から新たな価値基準を模索しているところである。行政としても様々な機会を見出して、新たなハピネス（幸福）のあり方を考え、日本人のあるべき姿を京都から情報発信に取り組まれたい。

⑥ 文化・芸術政策で京都の「都市格向上」を図られたい。

- ・芸術のまち・京都の都市格を一層高めるため、世界的なアーティストの作品を集め、京都の街全体を展示場として活用する、隔年開催の国際芸術祭等の計画を図られたい。京都市の目指す文化芸術都市の目標とも合致すると思われる。
- ・日本の古典の宝庫である京都から古典に親しみ、古典を日本の誇りとして後世に伝えていくため11月1日を古典の日として法制化を図るべきだ。実現の動きが出ている今こそ、京都市の力添えが必要と考える。

⑦ 京都ならではの少子高齢化対策で弱点を強みに転換を図られたい。

- ・共働きの増加や労働人口の減少などで女性の社会進出はより一層進む傾向にある。保育園整備など待機児童ゼロに向けた努力を続けられたい。
- ・市立病院改革をさらに進め、市民の安心・安全を守る医療拠点として整備、充実を図る必要がある。産婦人科、小児科や脳外科、心臓外科などの診療体制を強化、充実する必要がある。また、最先端のがん治療施設整備も検討すべきと思われる。
- ・高齢者の生きがい対策、お年寄りの知恵を継承するためにもシルバー層を市政ボランティアなどとしてもっと有効に人材活用を図られたい。

あとがき

私たちが日々の暮らしや経済活動を営む京都は、日本が世界に誇る歴史的、文化的国際都市である。また、最先端の学術研究と産業経済が連携し、世界に向けて情報発信する現代都市でもある。

その崇高な理念は、昭和 53（1978）年の「世界文化自由都市宣言」の中に高らかにこう謳われている。「都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう」と。

その気高い理念を実現することで、私たちが愛してやまない京都は 50 年後にも、100 年後にも「日本に京都があってよかった」といわれる都市であり続けることができるだろうか。私たちはもう一度、「世界文化自由都市宣言」の精神に立ち返るべきではないか。

そうした危機感、緊張感を持って私たちは平成 20 年 4 月に「門川京都市新市長への要望書」を、平成 21 年 7 月には『緊急提言 京都を「日本の未来を拓く戦略拠点」に』を取りまとめた。

上っ面だけの京都ブームでなく、ほんまもんの歴史や伝統、文化の上にいつも豊かな人々の営みが世界的なレベルで交流できる都市・京都であってほしい。それは、京都に拠点を置く経済団体である私たちの切実な願いでもある。

京都と京都市民の将来を決める京都市長選に向けて、私たちは 2 期目を目指す門川市長に政策要望を提出した。私たちの理想を追い求めるひたむきな思いが、今後の市政運営に反映されることを切に希望する。